

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070800204		
法人名	有限会社 グループホーム 渋川		
事業所名	グループホーム 渋川の家		
所在地	群馬県 渋川市 金井 125-4		
自己評価作成日	平成22年7月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成22年7月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様1人1人の残存能力を尊重しご自分で出来ることは自分のペースでやっていただく。出来ない所を職員がお手伝いさせていただく。待つことの大切さを認識する。1人1人が1日1日を明るく、仲良く、楽しく、時がゆったりと過ぎて暮らしている様子。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ヶ月毎の運営推進会議は自治会長、敬老会の会長、民生委員、市職員、利用者、家族の方、ホーム側が参加メンバーとなり、議題を前もって会議案内に記載し会議が有効に機能するようにしている。主体的に利用者の身体機能を活かすように排泄の自立への支援、誤嚥防止のための食事前の嚥下体操を行う等取り組みをしている。また、人格を尊重しての言葉かけ等職員一人ひとりが考えられる介護を目指し、職員の意見等も大切にして実践に活かしている。ホールガラス戸を開けるとベランダに出られ、四季折々の山を眺望し、脇に目をやると水槽に錦鯉が泳いでいる。外気浴やティータイムを楽しむ場にもなっている。利用者が地域の中で安心して暮らせるように、地域とホームの交流を深める為の働きかけを工夫し、職員は熱意を持ってホーム作りに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケース会議の中で無記名で理念を書いてもらい、違っている所は認識しなおしてもらい、共有し実践につなげている。	地域密着型サービスとしての理念を見直し、理念を玄関や事務所に掲示している。理念にある地域の中で人間らしく主体的に暮らせるために、地域とホームの関係性を深めるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年の初め道祖神祭の参加、1年置きに地域を変えて参加、付き合いを広めている。又、年2回の道路清掃にも積極的に参加して交流を深めている	自治会に加入し、職員が道路清掃に参加している。近隣の方から花や野菜を頂いたり、地域の太正琴グループの訪問があり、茶のみボランティアに気軽に来て頂けるよう働きかけている。以前は保育園児の訪問があったが現在はなく、小、中学校の運動会に招待を受けるが出席していない。	利用者が地域との関わりを持ちながら生活できるよう、地域の学校や保育園に働きかけ交流が行われることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通してなるべく多くの地域の方々に幅広く参加を促してご理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の方の興味はおおかたどんな方が暮らしているのか、、、費用はどのくらいかかるのか、、、今後は防災関係の協力体制等に力をお借りしたい。	運営推進会議は2ヶ月毎に行われ、利用状況、行事運営、評価結果その他について意見交換がなされ、地域ボランティアをホームに招くことや災害協力の依頼を自治会に依頼するなどサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特に運営推進会議を通して多方面の方との理解を深めている。	成年後見制度の利用や生活保護利用の方の受け入れの問題点などを市の担当者に相談している。今後、防災訓練への参加を促し、意見をいただきたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者さまにより玄関の施錠、解除は難しいテーマの1つで、今後時間帯によっては検討したい。	ホーム脇に溜池、玄関前には車の通りが比較的多い道路、その先には踏み切りがあるので、安全面を考慮して玄関は施錠している。外出傾向がある利用者の対応を工夫したり、出入りがわかるチャイムを玄関につけている。前回の外部評価を受け検討中である。	利用者の行動や心情の把握に努め、身体拘束や施錠等について話し合う機会を持ち、引き続き鍵をかけない時間等の検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	通知文書、基礎的調査報告書については職員全員に目を通してもらっている。虐待が見過ごされぬように防止に努めたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	双方に核当する方が入居されており、月1回ではあるが生活実態と健康状態等を報告、相談、連絡をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度確認と報告は行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年の暮れに夕食時間が早いのではとの1部のご家族から指摘を受け、現状17時を30分ずらして現在も継続している。	毎月の料金支払いの際の家族等の面会時に健康や暮らしの報告をしながら、意見等を聞いている。苦情相談窓口は重要事項説明書に明記し、外部の相談窓口のパンフレットを置いたり、玄関に意見箱を置いている。夕食時間の変更等の意見があり、時間を変更する等運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のケース会議の中で話す機会を設けているが、その都度聞く心構えである。	毎月の会議、カンファレンス、申し送りなどで自由に意見を交換している。職員の意見から食事前の嚥下体操の導入や利用者への言葉使い等の徹底等、改善に取り組みをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本年4月より賃金規定を変更し、新たに職務手当での資格制度と精勤手当を設けた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年6月に職員1人補充できるので積極的に取り組みたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の研修に昨年2回ほど参加、今年度はそれ以上に取り組みたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、病院等であるべく多くの情報をいただき、特に最初の10日間ほどは、ご本人の行動等は出来るだけ事細かく観察し情報を共有して、少しでも不安等をなくすように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学していただいた際にご家族が話しやすくなる環境作りに努め、ご家族の話を傾聴し信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じて状況判断を行い、必要なサービスを受ける事が出来るように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の状態に応じて出来ることは一緒にして頂く事で頼り頼られる良い関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と本人との関係を大切にしながらも、訪問時には本人の状況を説明し、ご家族の意見も伺い一緒に考えていただけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限は無く、親類や友人など、どなたでも来ていただけるように努めている。	お墓参りや馴染みの美容院に、家族の協力により出かけている。最近親戚の方が電話をくれたケースがあったが、友人等の訪問は無い。絵手紙を届けてくれるボランティアに返事を書きたい入居者の支援をしている。	これまでの生活が継続できるよう知人や地域の方とのつきあい、これまで利用してきた場所やお店が利用できるよう検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良いかた同士一緒にお風呂に入っていたり、お互いのお部屋でお話をしたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の不幸にも参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食べたいものや欲しいものを聞ける方には聞いています。個々の性格も考慮し1対1で伺い困難な方にはご家族に尋ねている。その結果をスタッフで検討している。主に食べ物や入浴方法など。	日々の生活をどのようにしたいか意思の疎通が図れる方には聞いています。困難な場合には、本人のしぐさや家族から情報を得て会議で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人情報で紙面に上がっている以外で、各利用者ご家族からお話を伺い、今までの生きてきた過程を聞いています。認知前後の性格、趣味、睡眠時間、ご家族との関係等。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	テレビ鑑賞、洗濯物たたみ、生活動作では、おはし、スプーンの持ち方、持てるかどうか等、見ている。精神状態において興奮、不安、情緒等を観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族が訪問した際は意見を伺い、ご本人にも色々な話を聞き職員間では3ヶ月毎のカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。身体状況に著しい変化が見られたときは、その都度作成している。	本人がより良く暮らせるよう家族が毎月訪問の折に希望を聞き、職員の気づき等をカンファレンスで検討し、介護計画を作成している。計画の見直しは3ヶ月であるが、変化があると随時見直しをしている。家族の了承を得ている。	本人、家族の希望を聞き、毎月モニタリングを行い、変化のない利用者であっても、記録をしておくことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践、気づいたことはその都度記録し、更に必要なことは申し送りノートを活用し、全員で情報を共有しケアの実践や介護計画に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ここ1, 2年で病院関係のバックアップと訪問看護の導入で特に健康面と緊急対応の強化を行った。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回答できない。意味が理解できない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	9名中2名の方が、かかりつけの病院と医院に通院している。	本人、家族の希望するかかりつけ医としている。協力医がかかりつけ医の場合は、月2回の往診がある。整形外科等家族の都合により職員が受診に同行の場合は、家族に受診状況を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問看護ステーションが入り看護師さんとその都度相談してる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ここ8ヶ月位入退院は無い。過去には病院との関係作りをしていた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に説明しているが、入居後は早い段階での話し合いは出来ていない。身体状態が変化し始めてからの話し合いになっているため、十分な支援が出来ていないのが現状である。	入居時に、ホームで対応でき得るケアの説明をしている。また、総合病院との連携を図り、急変時の入院対応等についてホームの体制が変わった折には、説明している。重度化した場合はその都度本人、家族と繰り返し話し合いをしている。	運営者、管理者、職員全員でホームで出来得ることを話し合い明確にし、家族に繰り返し説明を行い、状況変化に応じて話し合いをされ、方針の共有を図れるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルは出来ているが、実践はまだ実施していない。これからチャレンジしたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	特に夜間想定 of 火災訓練を強化、月1回は実施本年4月より。その中で地域との協力体制を築いていきたい。	年2回消防署の指導の下防火訓練を行い、それ以外に夜間想定 of 避難訓練を担当職員を決めて毎月行い、意見を出し合っている。協力体制については、運営推進会議を通じて地域の3役に依頼している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄において問い詰めない。相手を否定しない。汚い、臭いと言わない。問題があった場合、個人的にお話を聞く。	一人ひとりの高齢者の人格を尊重し、排泄時等には否定したり責めたりせず、本人がいない時に片付ける等誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人記録等は事務所に保管し、職員は守秘義務について理解をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	歌が唄いたい、テレビが観たい、服を洗濯して欲しい、衣類の整理等依頼されたことは一緒に行い、片付け等も本人が物をどこに置いたのかを伺いながらおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩に行きたく無い時、入浴をしたくないとき、夜間テレビをいつもより長く観たい時等、意見を聞いて可能な限り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族に伺い、どんな髪型が好ましいのか知った上で散髪している。本人に何う事が可能な場合は伺い、それに応じてピンで髪を止める時もある。衣類に関して何色が好きかとか、本人と一緒にいけるときは買って購入しご家族にも、用意してもらおう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方にはお茶を配って頂き下げ膳もして頂く。食器拭き、トレー拭き、テーブル拭き等も促し行ってもらっている。	食事の準備や後片付けを利用者と職員が一緒に行い、同じテーブルを囲み会話をしながらの楽しい食事への雰囲気作りも大切にしている。行事の際には生ものを提供する等をして楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量チェックをし食事、水分不足な方には時間をずらし提供し、水分については好きなものヤクルト、ポカリ等を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗える方には洗って頂き、うがいを促す。歯を有するかたには歯ブラシにてケア。歯も義歯も無い方にはうがいをさせている。必要に応じてイソジンうがいをさせている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	歩行困難でない限りポータブルトイレではなくトイレを全員使用されている。トイレの場所が分からない方には、その都度説明し誘導している。昼間尿失禁ゼロを目指しポータブルトイレを極力使用しないで対応している。時間でトイレを誘導している。	排泄の失敗等を責めたりせず自尊心を傷つけないような言葉かけをしている。排泄チェック表やしぐさから敏感に察知して、トイレでの排泄を誘導している。ポータブルトイレからトイレで排泄できるよう取り組んでいる方がおり、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を提供している。人によってはヤクルト、ヨーグルト。ラジオ体操、個人的にその場で足踏み等をしてもらい、日中は散歩に出かける。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1週間を通して何時入浴され、何日開いているかをチェックし、激しく拒否の無い限り入浴施行している。仲の良い利用者さま同士一緒に入浴されたり、入りたいと要望がある日はその都度入浴施行をしている。	入浴日を決めずに要望に添って対応しており、夜間入浴を希望される方にもできるだけ希望に添って対応している。仲の良い2人で入浴したり、歌を歌ったり、本人の昔話でゆっくりとした会話の時間を持って、楽しい入浴を支援している。入浴を激しく嫌がる場合には清拭や更衣等の対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前に持っていた人形を枕元に置いたりしている。又、眠くない時は無理に居室に誘導せずホールにて一緒に過ごし、入眠を待つようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認、内容の把握をし、医師に働きかけ状態の変化に応じて、薬内容の変更、服用し易い薬にしてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を唄ったり、ぬりえや折り紙、裁縫を一緒にしている。お茶配りや洗濯干しも手伝って頂ける方には手伝ってもらっている。ご家族に伺って、楽しくやっていた事、好きな食べ物などを参考に出来る限りはその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	特殊な買い物等があれば職員が同行しサポートをしている。	週2～3回近くの田園へ散歩に行ったり、家族と一緒にの夕食や買い物等に出かけたりしている。ベランダのソファで日光浴をしたり、ホーム駐車場でティータイム楽しんだり、年2回の行事では花見、グリーン牧場に出かけている。	車椅子の方を含めて散歩の機会を増やし、車でドライブ等戸外での活動が増えるよう期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今年6月の行事でダイソー100円均一に出掛け1人500円程度の買い物で本人が気に入ったものを購入していただくプランを立てた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りの補助、助成は促している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事、写真、草花、錦鯉等又、手作りの版画など常に生活感、季節感を取り入れている。	ホームにはデッキテラスがあり、自由に入出りでき、椅子が置かれくつろげるようになっている。ホールにテーブルやテレビがある他、畳スペースに掘炬燵があり談笑の場になっている。玄関先に季節の花が植えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあったもの同士の席替え、ソファ、ベランダソファと工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時はなるべくお願いをして、住み慣れたもの、使い慣れたもの、ご自分の好みのものをお持ちするよう促している。	居室には、筆筒、仏壇、テレビ、ラジカセ等を持ち込まれ、家族や本人の写真、ぬいぐるみ、カレンダー等で個々の生活スタイルに合わせて飾る場所を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	最近食後居眠りをする方が多いので、両肘がつけるイスを数台用意。また、車椅子の座りずれ防止マットを検討、実施。		